

社員の皆様へのメッセージ

株式会社 イナテック

代表取締役会長 稲垣良次

2025. 4
No.380

イナテック 代表取締役会長 就任

今年度、2025年1月1日からイナテック会長に就任しました。まさしく『会長職一年生』です。もう4ヶ月が過ぎようとしています。

かつて私が60才くらいの頃、先輩から言われたことがあります。「良次、お前は邦松社長が何才の時に前（良次）を社長にしたか覚えてるか」と問われたことをいつも思い出します。

それは何故かというと、社長の最大の仕事は後継者を育てることにある」と言われ

たのです。私が社長になったのは38才の時、父 邦松社長が60才の時でした。

交代前は、勤務中でも帰宅（同居）してからも、会社のことについて激論を闘わせ、常に親子喧嘩状態の日々でした。そんなある日、私は邦松社長に、「二頭政治はまずい。俺に社長をやらせてください。」と言いました。その時、「やれるものならやってみろ！」という邦松社長の一言で、私の社長業一年生が出発しました。

先輩が伝えたかった事

社長就任後、ある先輩から次のようなことを言われました。

「当時、邦松社長はわざと良次専務を怒らせ発奮させて、自分から『社長をやらせてくれ』と言わせたんだ。それまではじーっと我慢し、良次専務を育てたんだ。」

お前（良次）が、60才までに社長交代が出来なかったら、邦松さんの勝ちだ。それはつまり、経営者としては邦松さんの前に出られず、お前が負けたことになる。」

この言葉を常に思い出している次第です。

社長交代

鈴木俊守社長に交代したのは、私が満72才の時でした。邦松さんが社長職を譲ってくれた60才より12年遅れでした。

私は色々と言いつつ訳を言いました。リーマンショック、コロナ禍、EV化など、様々な理屈をこねては後継者の育成ができなかったことを世の中のせいにしてきました。

社長交代した今は、鈴木社長をどのように盛り上げ、イナテックグループを発展させることができるか考えています。

出しゃばらず

新社長の意見を聞き

時には大局から少し助言をする

新社長に頼まれれば陰ながら応援する

これもある先輩からの言葉ですが、「毎日会社に出社して、30分でもいいから現場の皆さんに声をかけ、『片目をつむって』あげる」とが大切だ」というアドバイスをいただきました。

つまり、言いたいことがあってもできるだけ『片目をつむって』我慢し続けることや、鈴木社長が動きやすくなるようにすることが私の役割ではないかと考えている “会長一年生” です。

責任は私が取る

鈴木社長に伝えたのは、「最後は “代表取締役会長” である私が全責任を負いますから、鈴木社長は身体を大切に頑張つて下さい」ということです。

私は新米会長ですが、これからもイナテックグループ全体をやりがいのある、生きがいのある楽しい会社にして、グループ社員の方々、社員の家族の方々が幸福になるよう頑張ります。

去る4月13日、大阪万博のオープニングに参加し、6時間歩いてパビリオンも見ることができました。若い人にはかありませんが、この身体もまだまだ使えそうです。皆さんを応援すると同時に、私も身体に気をつけながら頑張りますので “会長一年生” をよろしく願います。

菜根譚後集 一一一

公平正論、不可犯手。一犯則貽羞萬世。權門私賈、不可着脚。一着則點汚終身。

公平無私な意見や道理の正しい議論に対しては、さからってはならない。さからったが最後、恥を末代にまで残す結果となる。また権勢の盛んな屋敷や私利私欲の者どものたまり場に対しては、足をふみ入れてはならない。足をふみ入れたが最後、一生涯の汚れになる。

